

# Yamaguchi

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00053524">https://doi.org/10.24517/00053524</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



## 35. 山口県 追補

眞崎 久 (〒743-0052 光市三井6丁目14-1-303, 山口県植物研究会 masaki.hisashi@ysn21.jp)

## (A) 植物誌

現在2000年の『山口県産高等植物目録』をAPG分類体系に合わせ、最近までの新しい知見を加えた改訂版の作業が山口県植物研究会によって進められている。来年には印刷されるであろう。

シダ植物を纏めたものに『山口県におけるシダ植物の分布 (1) (2) (3) (4)』(嶋村拓実, 2003, 2004, 2006, 2012. 山口県立山口博物館研究報告 29, 30, 32, 38)がある。

2002年に印刷された眞崎博著『佐波川流域の植物相』は、1級河川である佐波川の流域で記録された植物の年譜と目録が掲載され、山口市徳地町から防府市にある流域の植物相がよく分かる。

2006年の見明長門・三宅貞敏編『山口県阿武郡阿東町の野生植物』は、山口県中央部の植物がまとめられている。現在、阿東町は山口市に編入されている。

近年出版された植物関係の書籍に次の2冊がある。

『秋吉台で出会った花』(中沢妙子 2010)

山口県の国定公園の秋吉台に見られるシダ植物を含めた約750種を写真と共に紹介している。毎年山焼きを行う秋吉台の草原に見られる植物と周囲の林縁や湿地などの植物が分かり、目録ともいえる1冊である。

『続続 やまぐち祈りの108樹』(三宅貞敏 2012)

第Ⅲ集となる本書は、第Ⅰ集(2004)、第Ⅱ集(2006)の総仕上げとなるもので、3冊には県内にある巨樹巨木や信仰の対象となる300樹の場所や大きさ・種の概要などが記録してある。これらの樹木は社寺にあることが多い。社寺は極相に近い森が残されていることが多く、植生を調査しようとする場合のガイドとしても活用できる。



## (B) 研究機関

植物と関連した自然史の研究機関として次の①～④の博物館がある。

- ① 県立山口博物館
- ② 美祢市立秋吉台科学博物館
- ③ 秋吉台エコ・ミュージアム
- ④ 豊田ほたるの里ミュージアム

県内の調査を行い、新産植物や地域フロラを毎年報告している会は、次の3団体がある。

- ① 山口植物学会(会長 南敦)

会誌『山口の植物』を年3回発行し、県内フロラの報告が多い。観察会も精力的に行っている。

- ② 野外植物研究委員会(委員長 咲花文隆)

高校教育研究会生物部会の下部組織で高校生物教員が中心となって調査を行っている。会誌『山口県の野外植物』を年1回発行し、後述の報告書も作成している。

- ③ 山口県植物研究会(事務局 眞崎博)

概ね年2回の『山口県植物研究会会報』を発行、春・秋の観察会を実施している。会報では新産植物の報告が主体である。

## (C) 標本庫

県新産植物などの証拠標本は県立山口博物館に納入されている。

## (D) レッドデータブック

2002年の『レッドデータやまぐち 山口県の絶滅のおそれのある野生生物』については、改訂版作成の準備も始まっていない。

## (E) 植物群落

全県的な生育環境別の報告に、野外植物研究委員会発行の次の資料がある。

『山口県の海岸植物 1999年～2001年の記録』

『山口県の溜池・湿地の植物 2001年～2003年の記録』

『山口県の河川植物 2003年～2005年の記録』

『山口県の夏緑樹林の植物 2004～2007』

『山口県の中間帯植生 2004～2009』

『山口県の照葉樹林の植物2004～2011』

それぞれの代表的な観察好適地や群落に見られる植物が紹介され、山口県の植生を調査するときに参考となる文献である。

(文中敬称略)